

# 労働者の未来をかけた「60・3」を闘う

日刊 動労千葉

85. 2. 19

No. 1867

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

## 「60・3」実力決起するために No.4

「60・3」は、侵略戦争にむけ十十五万人の国鉄労働者の首を切ることを通して、国鉄労働運動を解体しようとする「分割・民営化」攻撃の突破口であることがもはや鮮明となった。動労千葉は、国鉄労働運動の総屈服状況をはねのけ、この間の闘いで培った力量のいっさいをかけて「60・3」に実力決起する。労働者の未来をかけて。

### 「60・3」は恐るべき攻撃のはじまり

当局は一月十日の「経営改革のための基本方針」の中で、「分割・民営化」と十八万八千人体制の実現」を骨子とする独自の再建案を発表した。

さらに本年七月には、再建監理委員会が本答申を行い、「分割・民営化」と「十八万人体制」を暴力的におしとおそうとしている。

これが国鉄労働運動解体でなくてなんなのか。そして「60・3」こそ、こうした攻撃のはじまりにほかならない。

労働強化、人減らし、強制配転の「60・3」、  
「雇用安定協約」破棄による「三本柱」の強要、  
「過員対策」の強行など、当局の手段を選ばぬ攻撃は、三里塚二期とともに中曽根の「戦後政治の総決算」をかけた国鉄労働運動解体攻撃そのものである。そうである以上、労働運動の側がこれまでの延長線上で闘ってもたちうちできないことは明らかだ。

### 労働者は闘って活路を求める 以外に道はない

国鉄労働運動の現状は、敵の凶暴な攻撃に腰をぬかし総屈服状況に陥っている。

当局が発表した「経営改革のための基本方針」に対し、なんと全交運、国労、動労等が「労組として犠牲を恐れず・・・」「要求を一步さげても分割・民営化阻止を・・・」と声明する事態をほつきりと見すえなければならぬ。

国鉄「危機」とは日本帝国主義の体制的危機であり、国鉄労働運動は日帝・中曽根体制の「戦後政治の総決算」攻撃の最大の障害物として明確な解体対象なのである。従って、中曽根と国鉄労働者は非和解的対立関係にあり、労働運動がいかに屈服を重ねようが攻撃の手がゆるめられることはないことも明らかである。

労働者は闘って活路を求める以外に道はないのだ。

動労千葉は「国鉄と三里塚を基軸に反動中曽根と対決する労働運動」「80年代に通用する自前の労働運動」を基本路線に闘ってきた。3・25から10・10をはじめとする三里塚現地集会への五割動員を貫徹した団結力、組織力をもって、当局の様な攻撃を基本的にはね返し、勝利的に闘いぬいてきた。

国鉄労働者の未来を決する「60・3」に直面した今こそ、すべての力をふりしぼって闘いに決起し、国鉄労働者の進むべき道を指し示さなければならぬ。

### 非協力・安全確認行動に総決起せよ

動労千葉は、国鉄労働運動の戦闘的再生をかける壮大な第一歩を踏み出す闘いとして「60・3」実力決起の方針を打ちたてた。

二月八日、七〇名の結集をもって開催した第四回拡大支部代表者会議において、「二月中ノ下旬、非協力・安全確認行動」への突入をもって、「60・3」粉碎、激動の八〇年代を闘いぬける職場抵抗闘争を創造する闘いへの総決起を宣言した。

「60・3」に実力決起し、3・24三里塚への三たびの五割動員貫徹を通して、首切り「三本柱」粉碎、「分割・民営化」阻止、三里塚二期を粉碎し、労働者の平和な未来を実現しようではないか。

### あす48時間の 順法闘争予定

合理化反対で千葉動労  
千葉動労（中野洋委員長、約  
千二百人）は、来月の国鉄ダイヤ  
改定に伴う合理化に反対し  
て二十日前半時から千葉管  
理局管内全域で四十八時間の  
「非協力・安全確認闘争」を実  
施する予定であることを十八日  
明らかにした。闘争が実施され  
れば、千葉以西の国電区間で  
朝のラッシュ時に十一十分程  
度の遅れが出る見込みだ。

朝日（2/19）